



調和

入蓬入窠をくくくくくくく

蘇のやうくよき子御の家 不

陽をれ帝に題<sup>チ</sup>題<sup>カ</sup>馬<sup>ハ</sup>の建<sup>ト</sup> 舉白

古き少親一母と無じ 不角

己ヶ月丸く成くく半内から 溪石

旁ららのまの事入の事一船の女 勇招

下

庄河のつづき 寺わたり也 不卜

等々 薩摩の宮と稱せし也 調和

久河の姓 移後りしなり 不角

寝もせぬ 髪分けしと云ふ 奉白

雨の日に 酒凡少湯 井と乱る 勇招

かひはらへし 大渡 此有る 溪石

中陸も 程ゆき 巷入り 志の年 調和

且夕 入敷屋 乳をゆき 見 不卜

此のまゝ 八男の 信し 七面 奉白

今年 くるり 吉原 九賤 不角

河入 花の 月夜 瀬 溪石

孫く 一人 醒ぬ 衣乃 香 勇招

いづ 春神 角人 角 不卜

めく 春神 角人 角 調和

薩摩の 宮 角 角 不角

宮を 半 二 藍 角 奉白

魂をくさして寝安き氷室寺

勇招

障りとしてど五可余の道

溪石

素一と根のこまぬはま

調和

ふらぬ喪を服して露は星の目

不角

有刃の入しよの鐘は恨の

拳白

嵐の風より頃らるる息

不卜

黒鴨の古巣押せと磯清水

溪石

中程掛く捨

杖

勇招

死きさらぬ侍の毫れ清

不角

御湯乃世刈の野田の巻原

調和

まきくねを集コカシるコカシ雉子の

不卜

岫の霞より清りたる虹

拳白

花の今も苗責つる野山

勇招

雪入り水踏の京の草

溪石

才磨

櫻木の釣鐘多尾より作

春より人羊に落る野れ中 奉白

鶴亥の稍乃常小井濡く 不卜

乞ふたゆもよる鴨の集 溪石

月れ入る重明の浪るこく屯 松濤

暮れぬの同されしとや 才磨

合ミムリ歡キと馬ウマの眼メの縁ヘリの縁ヘリ 奉ホウ白ハク

雲クモと己ミとをヲ 馬ウマ 不フト

物モノの之ノ甲カウ斐ヒ長チカ事コトの架カ 溪キ石シ

粉コの店テンわりの州シウの舟フネ初ハツメ 松マツ濤ウ

艾ア葉ハ麵メンも山ヤマのノ裏ウラ 才サイ磨マ

身ミよきキはハの 詞コトバまマきキせ 奉ホウ白ハク

かカらラうウのノ人ヒト髪カミをヲ 傳ツタへヘ 不フト

鹿メシカ 鹿カシカのノ骨ホネ 溪キ石シ

継ツグ 橋ハシのノくクおオ落ヲるル 高タカ山ヤマ跡アト 松マツ濤ウ

妹イモ 乃ノてテもモもモ美ミ豆マメ野ノ 才サイ磨マ

華ハ鳥トのノ眼メまマぬヌ圓マダラのノ後アト 奉ホウ白ハク

春ハルのノかカきキもモあアれレたタ近チカのノ興キョウ 松マツ濤ウ

夕ユフ夜ヤ未ミ刻コクのノ橋ハシのノ短ミダかカ 才サイ磨マ

下シタへヘのノ酒サケをヲハハ抄シウりリ 不フト

舟フネ二ニ人ニ獨トク 讓ユツふフ 烟ケ七ナナ 溪キ石シ

己ミ路チのノ 入イりリ 奉ホウ白ハク

下 五

予のりて今方と筆し花の  
不

馬のりて心筆し入筆戸  
溪石

蜂のりて筆し花のりて  
不

因獄のりて入筆の筆  
才磨

乞念のりて物しぬりの  
才白

石見のりて下京のり  
不

おのりて筆し筆し筆し  
不

蝶のりて筆し筆し筆し  
不

藤花とら覗きぬ流氏  
才磨

樹とぬと權し指し  
才白

志回寺のりて筆し筆し  
不

花女の筆し筆し筆し  
不

春花のりて筆し筆し  
不

鏡と筆し筆し筆し  
不

雨入るきりりくよまきく栞母

蚤山

花ちるるを人正月のう

不角

春駒ニヤヒ情一好野とて

一排

清くよ様の新遊くし

以喉

まひるを月と暑の網代

扇香

善く人おほる京の響木

琴良



夢とてしつ同く金更のまにば 不

名と響く佳傾城の麓 蚤止

折上らる菊はくおぬ衣也 不角

不ぬとさわく露も 里つこ 一排

あまのつらき人まする枝の言 以喉

月の一覗く常一りも黄り 扇書

魁魁 紙帳はくよ足もはて 琴風

童身しつ一雷入 素轉 不卜

字合れ水掉はくくろく花は局 一排

奉 加よらとらる 俳傳の舞 以喉

こと功をほほきとらるまぬぬ 不角

事はくもとのひくさ餅つさ 蚤止

清ぬれとせぬのたうさ晴舞の言 扇書

角 一と落し くらまらる 扇 琴風

後集巻と今年と舎人羊躰 不卜

いしつくはく ちとらる 一排



明星今櫻定かぬとらう

麒麟

あつひとよの月乃陽を

峽水

立ッ雛ハ跡よのふたれ繩解トキて

琴風

そりのクサム噓乃まをわしき

扇雪

水清くカハヤ則トれ下タと行ハ流ハき

不卜

涼ハ中ハりハまれまをし

一排

猿衣集イは微くそし瀆く  
峽水

泣ナクしわらへし妙意の友  
キ角

空の妻はまはらへし  
扇雪

田植とそまらへし  
翠

かへし鳥類は駕籠は僧ニ  
一排

人へしキツチ継キし石おほと春フコ  
不

水せし僧と尋ねる僧へつ  
其角

いさきまわまへの町中の鹿  
峽

楚れ精はむ斬入月がら  
琴風

風亭ニはるる牆の百ナリ甄  
扇雪

花のゆぬクラクスミ育醫れ身と儂く  
不

春の羽衣は舍利唱き  
一排

己城の少便カヒ買もねる也  
キ角

雪見よわらへし殺入傘  
峽水

みらへしはも一軒と尋ねる  
扇雪

菴とまらへし茶の陽者カヒは  
琴風

わ鴨カイツ卵カイツ音カイツ静カイツく

一排

舟フネ鬚ヒゲ氷ヒメ曙トキ

不卜

何ナニ人ヒト夷ヒメ宮ミヤ祝イハヒ乙ヒメ

峽水

丈シタ婦メ親オヤハヒメ

其角

狂キヤウ言コト能ス狂キヤウ言コト能ス

琴風

心ココロとト心ココロとト

一排

月ツキ之ノ貴キ馬ウマ之ノ儀ノ

不卜

奉ホウ幣ヘイ乃ノ後ノチ菊キク乃ノチ

扇雪

州シウ之ノ楠ノ葉ハ之ノ野ノ朝アサ也ナリ

其角

乃ノチ之ノチ乃ノチ之ノチ

峽水

乃ノチ之ノチ乃ノチ之ノチ

不卜

乃ノチ之ノチ乃ノチ之ノチ

扇雪

乃ノチ之ノチ乃ノチ之ノチ

一排

乃ノチ之ノチ乃ノチ之ノチ

琴風

追加

不卜

その榊のまきほくく様哉

羽<sup>ハ</sup>白<sup>シ</sup>鳥<sup>ノ</sup>几<sup>ノ</sup>汝<sup>ガ</sup>長<sup>キ</sup>糸<sup>ヲ</sup>な<sup>り</sup>又<sup>ノ</sup>所<sup>ニ</sup> 琴風

酒<sup>ヲ</sup>り<sup>て</sup>今<sup>ノ</sup>家<sup>ニ</sup> 樓<sup>ル</sup>人<sup>ノ</sup>三<sup>階</sup>ト 其角

鳴<sup>ぐ</sup>又<sup>ノ</sup>所<sup>ニ</sup>の<sup>ノ</sup>月<sup>見</sup>の<sup>ノ</sup>風

あ<sup>ら</sup>ま<sup>り</sup>吟<sup>ム</sup> 駒<sup>ノ</sup>を<sup>ノ</sup>あ<sup>ら</sup>る<sup>く</sup> 角

下

下

下

道唐くそ下に遊りみこト

雪の信とくし杉葉りの軒風ト

鉛と切ル櫂の鉦鼓の音よりト

延慶の奉一かよ船より舟ト

つとくと糸糸平年如ゆりト

わの如鏡一顔をたぐむト

おとと一目の敷は流しとト

忘バのまゆは梓とととト

捨ふおぬ捨子乃親のきりしト

われく萌るりの忘れ去ト

月影の境とわびきりト

春れ束つらきふみりト

<sup>名</sup>長たのれ鞆トモの女を粟よりト

楓一おんほふ思ひ淋しト

夕立と知し如古冬ト

所縁り早サウ歌神一思ひト

游 鯉の底下せしと望みし  
 大根わくさうし 烟の足はし  
 台草のく行と底に雪の舟  
 足成衣所 儻々 園守の妻  
 色をさぬり 玉に紅粧をさる  
 物更さる人 稻の華 ちり  
 世の月を 暖物と飽と  
 供して 宗祇とわらふ 梅凡  
 風 角 卜 角 風 卜 角 風

空の河の 續とかく思のふ  
 竹 植う ちり 北の 透垣  
 蘇と膝の 鳥帽をさるさる  
 流し 流し 流し 流し 流し  
 形をさる人 九と 御歌の  
 己庄わらふ 露の 少  
 風 角 卜 風 角 卜 風



續之原

春

物くや何ゆー 室と春露 不外

ねらうて常乃 朗月と成りりり 不角

古澤の奔り 乃とれ白い哉 二齋

笑くわてまゝ 折玉と母の心 景道

七娘の如母ととらう 一と君を原 文子

花の心まゝ 鶯園キ 一と母を原 調榊

日の光るよ 毎の心 吟よ ちのち 松濤

榊本堂

たのめし〜のたはる様〜 沿邊

駒を掃く〜を〜雪向成 拳白

考(漸)

竹ノ音也押と尋子露の記 其角

竹の音と物を用いませ 才丸

風を〜と〜の押ノ形 勇招

青押ノ字ト〜の歩〜成 一等

角田川

舟〜風と〜押成 不卜

青押ノ片ノ音也心馬と成 調義

割るを〜と斬編ら 立三

その〜の奥を〜と 比竹

ワの負ハ〜捨ぬつ〜 溪石

玉押ノ被〜と〜成 調押

舟のりや野馬〜と〜成 扇雪

雨〜と〜と〜成 重元

下葉〜と〜と〜成 拳白

行〜の標の〜と〜成 一排

ワケ歌よまじつとかがわく胡蝶の乱 不角

行駒の足よまじつとかがわく胡蝶の乱 不ト

小舞原よまじつとかがわく雄子の涙 由之

かつらもく葛よりほろほろ雄子の 一排

鳴入りて何れもくろ負しなまを雀 琴風

梁入り蝶もくろ負しなまを雀 蚊足

はくくつれ鼻もくろ負しなまを雀 不角

連翹の白いよまじつとかがわく風の乱 映水

と吹や切りの乱 文鱗

まよの華れ 宇齋

壩の排 蚕山

離れ 其角

桃のりや 琴風

餅つ 調押

離 立三

夕 不角

わ 李下

裸 三園

物皆自得

花やわらふ 虹まよふ 月を在 芭蕉

月移花影 上欄干

月影のひさし 植かゆふ 後ろ非 不

釣のく鏡 けしむ花はく 文麟

山櫻 住メ 佛と 少り 水 文彦山

鶏の鳴く 八ら ぬさく 成 溪石

初櫻 風 <sup>ホリカ</sup> 琵琶 川 津 一 嘯

又く 折 疾 たり 山 櫻 琴風

嘆も 哀 ごと 一本 花 び せよ 山 櫻 拳白

去言 して 寺の 心 なき く 櫻 調 柎

常 あり 顔 みる 寺 屏 言

花 人 なく 寺 梅 雀

片 陰 も 春 人 道 あり 櫻 湖 舟

見 事 すと び 心 調 味

行 事 の 信 心 岸 の 心 由 之

あり ても 深 春 の せり 湖 舟

心 ごと 人 鏡 中 水 用 け 山 園

菴りや峯人懐ふ

白くし

溪石

下

七

集

三月正當三十日  
風光別我苦吟身

大角一 起くりよと給成

其角

根んちよ葉よとと牡丹と

挙白

我々よと葉よと

春よ入の二葉よとと

調栞

鳴よとくおきよとと

三翁

卯月よと難のけしれと

泊蓬

顔ほし高りやと

立は

粽早一とどく女の早一節亦  
調味

女一とどく女一節亦  
調義

子と身よて又婦一とどく田植亦  
溪石

米舟の枕とどくし八月雨  
和水

く女一人を赤かどどく早百節  
朱絃

やとどくくから女一節一行亦  
才丸

草一の根よ葉のまよ女一節亦  
雨閨

花と身よてしとどく推一の節亦  
一排

鴨の菜よ葉か女一節亦  
全

煙おとどくく女一節亦  
湖舟

おとどくく二とどく女一節亦  
不角

家一とどくや女一節亦  
梅雀

おとどくくや女一節亦  
雨閨

寺と身よてしとどく女一節亦  
釜山

く一とどく女一節亦  
琴風

扇一とどく女一節亦  
由之

帆一とどく女一節亦  
伸風

帆一とどく女一節亦  
廉言

川流を眺むとわらわる小舟の舟 峽水

身と安く可定かぬ下 扇雪

百八入色くあつく涼しき子 文子

涼しき人かたし毛也 小舟下 不卜

月と山とく 松清

いづれも 不諫

いづれも 不諫

意欲し 芭蕉

凡ゆるり 不諫

~~~~~

振舞の 不角

こころを 三園

冷し 齋

白く 琴風

あつし 溪石

夕ま 不卜

物言ふ 念ふ

秋

六日八日鏡之下也廿七夕 不角

セ夕とは所の鳥也鳥の度し 扇雪

傘エリ日和と鳥の手に向紙 溪石

宿真一々星のつらねと 琴風

矢士の解をある相撲のふ 不卜

くれば衣のしるも賦一也お撲 幸角

舞一よみの向あそびのくさ 才丸

舞一の草又よもをさるる下 古川

帆柱は横言くく誦ち一 調柀

檣の匂ひをあるを若菜ごめり下 立三

つらふかよ小羽の菊と名のこ 梅雀

舞一やまれば舞一くた誦は 調義

馬を居るをゆり松松も居るは 松濤

又月入海に居るく可也 比竹



品川と誰れも淋し稲の花 峽水  
 いづれや思ひよき秋の暁 琴風  
 相告の巻さし月くさくさ 蛭刺し 夕口  
 早の戸表 秋金よき花に 不卜  
 ちよ刈り多ふ 冬くさくさ 我 伸風  
 之屋 精吟さきさき 研り 飛 鷗白  
 ぬきさくと 拍子くさくさ 扇雪  
 扇雪  
 今日の日又愈えてゆく 不角

鷗計 柳の月くさくさ 三三  
 扇雪乃馬よ 一排  
 雲々々の 不卜  
 ねもくは 夕名  
 柳の 釜山  
 うさ 三翁  
 長し 文子  
 自あ乃 奉白  
 瘦牛よ 調栞

さくらさくら

しんじゆ

秋の菊

不角

冬

曉の早と歩行 河内

勇招

女さくららぬ田の河内

文子

葛枯く礎とぬりこと麓

琴風

ふしきりて落葉と悔ひ階

沾蓬

落葉して世はほろの麓

調味

ワセいせらぶ物めく枯

不角

風の櫻 月の暮

柙甫

もろく糖の多き寒き

立三

舟人こりまゝ 寂しく 舟の底に下 白楊

寂しく 舟の底に下 舟の底に下 工齋

牡丹とさくら

舟の底に下 舟の底に下 舟の底に下 芭蕉

舟の底に下 舟の底に下 舟の底に下 才丸

舟の底に下 舟の底に下 舟の底に下 溪石

舟の底に下 舟の底に下 舟の底に下 琴風

舟の底に下 舟の底に下 舟の底に下 溪石

舟の底に下 舟の底に下 舟の底に下 此角

舟の底に下 舟の底に下 舟の底に下 芭蕉

舟の底に下 舟の底に下 舟の底に下 其角

舟の底に下 舟の底に下 舟の底に下 卒日

舟の底に下 舟の底に下 舟の底に下 藤言

舟の底に下 舟の底に下 舟の底に下 一排

芭蕉芭蕉

舟の底に下 舟の底に下 舟の底に下 不卜

舟の底に下 舟の底に下 舟の底に下 立三

舟の底に下 舟の底に下 舟の底に下 和水

六五

疎のてしつて梅の六時不 浅山

のてしつて毒の園の 毒雀

行のてしつて親の 竹心

和のてしつて 扇雪

坐右ノ銘

行のてしつて 其角

